

厚木市教育委員会の基本目標	1 自ら学び、鍛え、未来を拓き、夢や可能性に挑み続ける力の育成【挑戦】 2 自他の命や豊かな感性を大切にし、多様性を認めながら共に生きていく力の育成【共生】 3 変化する社会に自ら進んで関わり、人々と協働してより良い社会を創る力の育成【創造】	校長名 川口 千秋
---------------	---	-----------

学校教育目標 自分に自信と誇りを持ち、心豊かにたくましくともに学ぶ 児童の育成	学校経営の方針 学校教育目標の具現化へ向け、教職員が心を一つにして、「子ども」を主語にした教育活動の展開に努める。
--	--

今年度の重点目標		
豊かな心 ◎多様な他者と認め合い、高め合い、共に生きていく豊かな心の育成 ○一人一人に応じた指導や支援の充実 ○子どもの居場所がある学級経営、人間関係作りの育成	確かな学び ◎一人一人の興味・関心を基にした多様で質の高い学びづくり ○主体的で対話的な学びの教育と社会に開かれた教育課程の推進 ○安心・安全な学習環境づくり	健やかな体 ◎多様な運動や体力づくりに楽しく取り組む環境づくり ○防犯や交通安全などの安全指導の徹底 ○家庭連携した感染症対策への意識向上

評価項目・指標等	基本目標との関連	具体的な取組	成果と課題	次年度への具体的な改善策
①豊かな心 (多様な他者との関係づくり、個に応じた指導・支援の充実、よりよい学級経営、道徳・人権)	2・3	<ul style="list-style-type: none"> 児童会活動(異学年交流、児童会行事)の充実 学級経営(児童理解、集団づくり、環境整備)の充実 全職員で全児童の実態把握(情報共有、ウォッチングウィーク) 支援教育(教育支援会議、個に応じた指導)の充実 道徳・人権教育の推進 キャリア教育の推進 	<ul style="list-style-type: none"> 各委員会が中心となり、児童会活動を進めることができた。 ウォッチングウィークにより、児童の支援・指導だけでなく、学級経営についても教員間の連携を図ることができた。 支援が必要な児童や困り感をもつ保護者に対して、組織的に対応することができた。 スクールカウンセラーや元気アップアシスタントと連携して、児童や保護者に寄り添った支援を行うことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人の良さを認め、個に応じた指導や支援の充実を図る。 成長や発達段階に応じた指導の在り方や児童の困り感を分析する中で、児童への働きかけの工夫・改善を行う。 児童指導及びケース会議における継続的な審議と会議の在り方の模索を図る。 困り感のある児童に対して、個別の対応ができるよう組織的に支援ができるようにする。
②確かな学び (学習活動の充実、ICTを活用した授業、安心安全な学習環境づくり)	1	<ul style="list-style-type: none"> 学年に応じたタブレットPCの基本操作とプログラミング教育の充実 主体的で対話的な学びに向けた授業改善の推進 地域の歴史や自然、人材と触れ合う学習活動の充実と発信 SDGsの視点を取り入れた教科指導の計画と推進 	<ul style="list-style-type: none"> 年度初めに各学年に応じた指導内容を提示し、進捗状況を確認しながら進めることができた。 校内研究と絡めて、児童が生き生きと自分の考えを表現できるよう、授業改善に努めた。 地域の方々に加え、学校運営協議会委員や学生などにも協力を要請し、学習活動の充実を努めた。 総合的な学習を中心に、SDGsについての知識や活動を計画・推進した。 	<ul style="list-style-type: none"> タブレットPCの操作に慣れてきた児童の実態を踏まえ、指導内容を見直し、さらなる充実を図るようにする。 引き続き、校内研究と併せて取り組み、表現・伝え合い活動の充実を図る。 各学年の学習活動を見直したり精選したりして、指導内容を計画的に進めることができるようにする。 総合的な学習の時間以外の教科において、SDGsに関わる指導や活動について、情報共有する。
③健やかな体 (多様な運動、体力づくりに楽しく取り組む、安全指導、感染症対策の意識向上)	1・2	<ul style="list-style-type: none"> 学年で取り組めるスポーツの紹介 スポーツビンゴの実施 登下校の見守りと声掛けの実施 自転車の乗り方や交通安全などの指導の啓発と発信 ハンカチ・ティッシュの携帯調査 感染症対策動画の発信 	<ul style="list-style-type: none"> スポーツビンゴを通して、楽しみながら多様な動きや遊びをする機会を設けることができた。 下校見守りを通して、事例をもとに下校について全校で安全指導することができた。 交通安全教室において、低学年の歩行練習、自転車の乗り方についても母の会と安全指導ができた。 児童の委員会活動では、ハンカチ・ティッシュの携帯調査を行い、啓発に努めた。 多数の教員と協力しあって、感染症対策動画を保護者や児童に啓発することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> スポーツビンゴを継続し、様々な遊びの紹介も含め、日常でできる多様な遊びや運動の呼びかけを行う。 不審者訓練や避難訓練を工夫し、様々な場面を想定して行う。 感染症対策で行ってきた取組を継続し、衛生週間の習慣化を図る。 掃除の仕方を見直し、指導を工夫して、清掃活動の充実を図る。

④校内研究推進	1・2	<ul style="list-style-type: none"> 算数の授業研究に向けての企画・推進・取りまとめ 算数の指導法についての情報発信 伝え合い活動や数学的活動などのテーマに関する研修会の計画・実施 	<ul style="list-style-type: none"> 「自分の考えを生き生きと表現し、学びあう子～数学的活動を通して～」というテーマのもと、低・中・高の部会ごとに研究を進めることができた。 導入の工夫や伝え合い活動の仕方について、授業研究を通して、提案することができた。 筑波大学付属小学校盛山隆雄先生を講師に迎え、テーマについての研鑽を深めることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業研究において、学年や部会ごとに目指す児童像や伝え合いの仕方を設定し、系統立てて進めることができるようにする。 導入の工夫やまとめの仕方、算数的な言葉の使い方や帯の活動などについて、学校全体で取り組むようにする。 算数の指導法について、引き続き、研修会を設定したり講師を招くなどして、研鑽を深められるようにする。
⑤特別活動の充実	2・3	<ul style="list-style-type: none"> 児童会活動(代表委員会、委員会活動、児童会行事、児童集会)を通してのリーダーの育成、上学年児童への啓発 縦割り活動(委員会活動、クラブ活動、「ハッピータイム」)を通しての人間関係づくりの実施 学級活動において性教育の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 高学年のリーダーとしての意識や集団をまとめる意識の向上が各活動で見られた。 委員会活動では、「チャレンジ活動」と称し、これまでに取り組んでいなかった活動を新設することができた。 児童会活動、学級活動における自治的話合い活動の充実から、各集団内の意思疎通が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童会活動や縦割り活動、学級活動における計画を見直し、児童の主体的な取組を促進させる。 委員会活動の役割分担を整理し、常時活動の充実を図る。

今年度の学校関係者評価委員会からの意見

・コロナ禍における教育活動、先生方が子どもたちのために努力している姿勢に頭がさがる。また、保護者アンケートの結果からも、学校が誠実に向き合っていることがわかるのご意見をいただいた。

・学校の花壇もボランティアの方々の協力により、きれいにされていることもよいと思うが、校舎内外で整頓されていないところもあり、環境整備の必要があるとのご意見もいただいた。

・学校ホームページについて、コロナ禍の状況下で、保護者が学校に来る機会が減っていたため、写真だけでなく動画等で見ることができるとさらによいのでは、という提案をいただいた。

今年度の学校経営のまとめ・次年度への改善の方針

・「豊かな心」「確かな学び」「健やかな体」の3分野でのグループ会議を行い、重点の確認や具体的な取組について、共通理解を図り実践につなげることができた。

・今年度も感染症対策をしながらの教育活動の展開となったが、できない理由を探すのではなく、どうしたらできるかを考える風土を醸成し、これまであたり前に行ってきたことについて、見直して取り組んだ。次年度に向け、感染症対策等の制限が緩和される中、コロナ禍以前の教育活動に戻すという感覚ではなく、コロナ禍で学んだ知見や経験を活かして、新たな学校づくりに挑戦したい。

・学力・学習状況調査をもとに、本校の課題や強みについて共通理解を図り、各学年における課題解決のための具体的手立てについて、検討することができた。

・各グループの重点目標や目標を達成するための具体的な取組などの位置づけを再検討し、共通理解することにより、学校全体を挙げての取組ができるようになった。

・グループの機能を働かせ、具体的な取組や充実を図ることから、更なる担当グループでの具体的な取組の検討を推進する。

・次年度についても、保護者、地域と連携しコミュニティスクールを基盤とした地域とともにある学校づくりに努める。